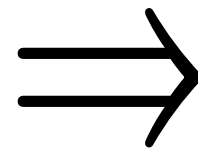


案

現在の区別構想



《江南区の将来像》-区ビジョン基本方針より-  
～緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち～

《区づくりの方向性》

- ① 亀田・横越・曾野木地区の既成市街地の都市機能の充実を図るとともに、亀田地区を地域拠点、横越・曾野木・両川・大江山地区を生活の拠点として活性化を図ります。
- ② JR信越本線と(仮称)新潟中央環状道路が交差する交通結節点や流通拠点施設等の重要な社会資本施設を有効活用することで、市全体や区の持続的な発展に寄与できる新しいまちづくりに取り組みます。
- ③ 日本海東北自動車道や磐越自動車道をはじめ、国道49号、403号の広域幹線道路網とリンクした地域間交流ネットワークや区内交通ネットワーク構築のため、(仮称)新潟中央環状道路・外郭環状道路等の主要幹線道路の整備を進めます。
- ④ 農村集落では、田園集落づくり制度などにより、定住人口の確保や活性化を図ります。
- ⑤ 田園及び河川などは、江南区の貴重な財産として捉え、その恵まれた自然環境の保全に努め、豊かな自然と都市機能の利便性を兼ね備えたまちづくりを進めます。

この10年間  
での  
進捗状況



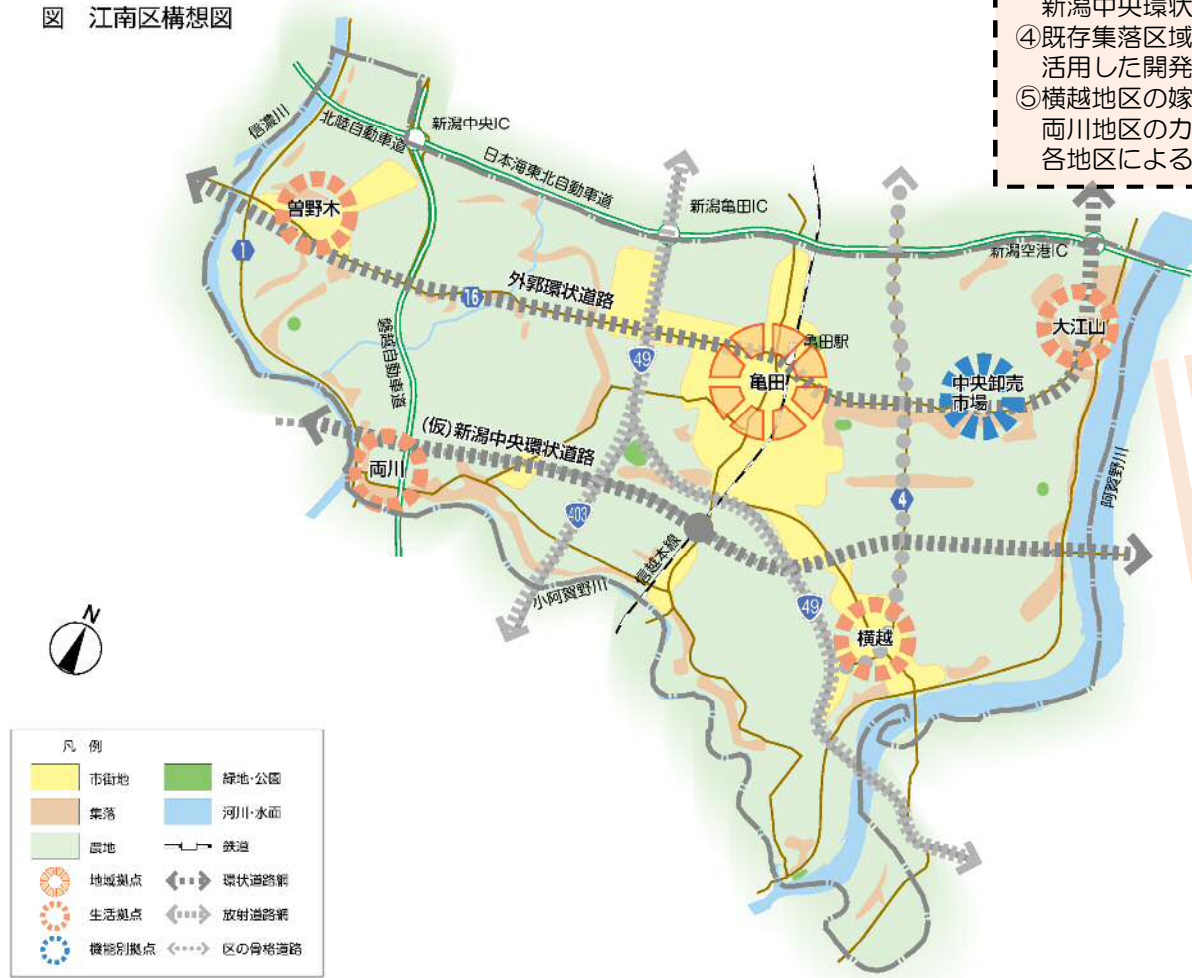
今後の  
方針

継続  
継続  
継続  
継続  
継続

《この10年間の主たるトピックス》

- ① 江南区区ビジョンまちづくり計画を推進し  
区の活性化を推進する一方で  
既存市街地の空き家等の新たな課題が発生 など
- ② 新潟東スマートICや国道403号が開通  
新たな工業用地4地区の整備が始動 など
- ③ 新潟東スマートICや国道403号が開通(再掲)  
新潟中央環状線の事業着手 など
- ④ 既存集落区域における建築要件緩和とする制度を  
活用した開発許可が8区中1位 など
- ⑤ 横越地区の嫁入り船や  
両川地区のカヌー体験会などの実施  
各地区による水辺空間の活用や保全活動 など

図 江南区構想図



++新たな視点++

- 公共交通に対する意識の高まり  
背景：高齢者による事故の増加  
免許返納による交通手段確保  
⇒単独項目化
- 防災・減災意識の高まり  
背景：災害の大規模化・激甚化  
ハザードマップなどによる  
危険箇所の把握  
⇒①に追記

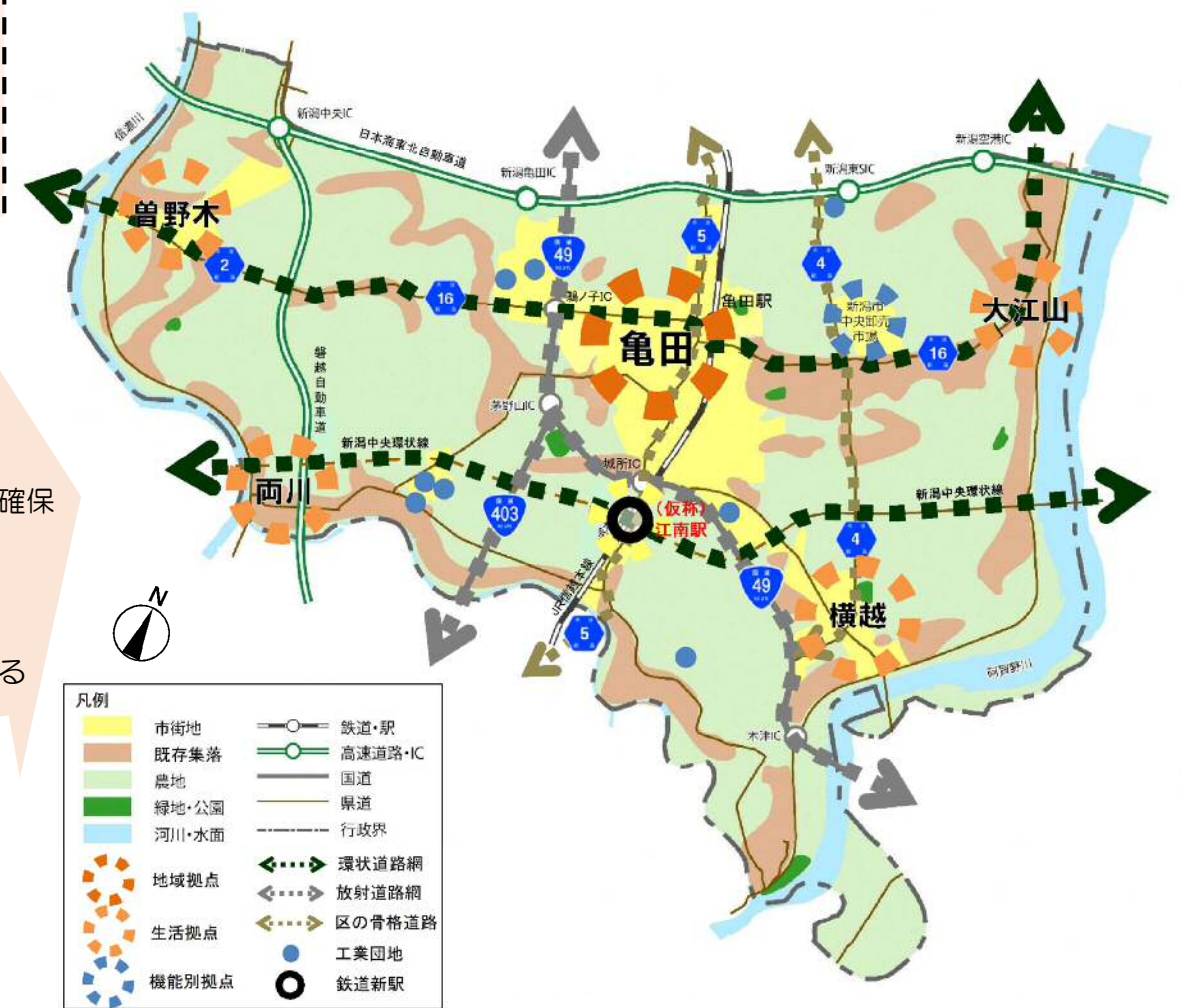
《江南区の将来像》-区ビジョン基本方針より-  
～緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち～

《区づくりの方向性》

- ① 亀田地区を地域拠点、横越・曾野木・両川・大江山地区を生活拠点として活性化を図るとともに、各地区において既成市街地の都市機能および**江南区の地域特性を踏まえた防災機能**についても維持・充実を図ります。
- ② **(仮称)江南駅の設置とともに**、それらの交通結節点や各種拠点施設などの重要な社会資本を有効活用し、市全体や区の持続的な発展に寄与するまちづくりに取り組みます。
- ③ 日本海東北自動車道や磐越自動車道をはじめ、国道49号、403号の広域幹線道路網とリンクした、地域間交流や区内交通に資する道路ネットワーク構築のため、引き続き新潟中央環状線などの主要幹線道路の整備を進めます。
- ④ **公共交通ネットワークを確保するため、既存のバス路線および区バス、住民バスの充実に努めるとともに、さらなる移動しやすい環境整備など**を図ります。(新規)
- ⑤ 農村集落では、既存集落区域内の住宅建築の促進などにより、定住人口の確保や活性化を進めます。
- ⑥ 田園および河川などを江南区の貴重な財産として捉え、その恵まれた自然環境の保全に努めるとともに、その活用を図ることで、豊かな自然と都市機能の利便性を兼ね備えたまちづくりを進めます。

※赤文字：現区別構想からの更新箇所

図 江南区構想図(案)





## 4 江南区

### ① 区の概要

#### (1) 地勢

- 江南区は、東を阿賀野川、西を信濃川、南を小阿賀野川、北を日本海東北自動車道と接しており、面積は75.42平方キロメートルで市のほぼ中心に位置しています。
- 土地は平坦で海拔0メートル地帯が多く、かつては「地図にない湖」と呼ばれ、また河川の氾濫などで幾多の浸水被害がありました。河川改修や土地改良事業により、広大な優良農地へと生まれ変わり、稲作を基幹とした多様な農産物を供給する都市近郊型農業が営まれています。
- 区内の道路ネットワークは、北陸・日本海東北・磐越自動車道の高速道路をはじめ、国道49号・403号および主要地方道など広域幹線道路で構成され、現在は新潟中央環状線の建設も進められています。
- 公共交通の面では、JR信越本線亀田駅を結節点に営業路線バス、区バス、住民バスが各方面に運行しています。



■新潟亀田インターチェンジ付近より亀田駅方向を望む

#### (2) 自然・歴史

- 江南区は信濃川、阿賀野川、小阿賀野川の三川に囲まれた自然の魅力にあふれ、川の豊かな自然環境から様々な植物や鳥などが生息しています。また河川における秋から冬の風物詩として、たくさんの白鳥が飛来し、伝統的なサケ漁も行われています。
- 広大な田園は生産基盤であるとともに優れた自然空間を形成し、人々に安らぎを与えています。
- 豪農「伊藤家」の旧邸宅である北方文化博物館には、100畳敷の大広間から眺める回遊式庭園などの見どころがあります。



■北方文化博物館（大広間）

#### (3) 人口・世帯数

- 江南区の人口・世帯数は平成27年時点では約6.9万人・2.3万世帯でしたが、単身世帯の増加や核家族化の進行により、世帯数は増加する一方、人口は減少すると推計されています。

■人口・世帯数の推移・推計(H27 国勢調査)

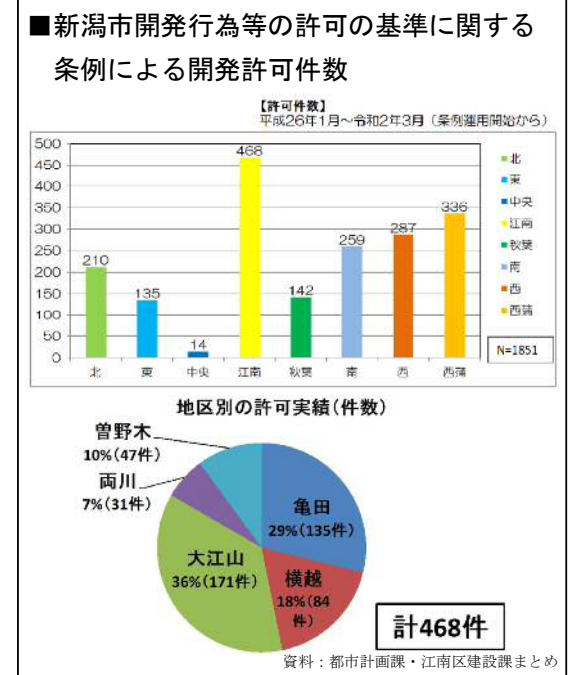


資料：国勢調査（H27）、推計値は国勢調査（H27）に基づく国立社会保障・人口問題研究所の将来推計（H30）を参考に新潟市推計

### ② 現状と課題

#### (1) 土地利用

- 江南区を構成する亀田、横越、曾野木、両川、大江山の5地区の日常生活圏は、恵まれた自然環境を保全・活用しながら、区全体でコンパクト・プラス・ネットワークを考慮した適切な立地誘導を進めています。
- 農村集落（既存集落区域）の維持・活性化を図るため、新潟市開発行為等の許可の基準に関する条例により緩和された建築要件を活用し、開発許可を受けた件数が8区中1位となっています。引き続き定住人口を確保することで、集落活性化が期待されます。
- 空き家などの課題を踏まえた既成市街地の都市機能および江南区の地域特性（三方が河川に囲まれている、海拔0メートル地帯など）を踏まえた防災機能の維持・充実が期待されます。



#### (2) 交通

- 亀田地区を「地域拠点」、横越・曾野木・両川・大江山地区を「生活拠点」と位置付け、日本海東北自動車道や磐越自動車道をはじめ、国道49号、403号の広域幹線道路網とリンクした、各拠点を結ぶ道路ネットワークを構築するため、引き続き、新潟中央環状線などの幹線道路の整備を進めています。
- JR信越本線と新潟中央環状線との交点に、新たに（仮称）江南駅を設置する計画が進められており、交通結節点としての整備および周辺開発による地域活性化が期待されます。
- 移動しやすい環境整備に向け、既存の路線バスおよび区バス、住民バスの充実が求められています。



■新潟中央環状線 横越バイパス

#### (3) 産業

- 高速道路のインターチェンジ周辺や主要幹線道路沿線に大型商業施設や工業団地が立地し、また、新たな雇用の確保に向け4つの工業団地の整備を進めています。
- 新潟市中央卸売市場やその関連施設が、市内をはじめ県内へ鮮魚、野菜、果樹、花きなどの生産と消費を結ぶ流通拠点として重要な役割を担っています。今後は市内唯一の中央卸売市場として都市と農村の新たな交流の機能も期待されます。

③ 区づくりの方向性

<区の将来像>

～緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち～

(1) 都市機能・防災機能の維持・充実

亀田地区を地域拠点、横越・曾野木・両川・大江山地区を生活拠点として活性化を図るとともに、各地区において既成市街地の都市機能および江南区の地域特性を踏まえた防災機能についても維持・充実を図ります。

(2) 重要な社会資本を有効活用したまちづくり

(仮称)江南駅の設置とともに、それらの交通結節点や各種拠点施設などの重要な社会資本を有効活用し、市全体や区の持続的な発展に寄与するまちづくりに取り組みます。

(3) 道路ネットワークの構築

日本海東北自動車道や磐越自動車道をはじめ、国道49号、403号の広域幹線道路網とリンクした、地域間交流や区内交通に資する道路ネットワーク構築のため、引き続き新潟中央環状線などの主要幹線道路の整備を進めます。

(4) 公共交通ネットワークの確保

公共交通ネットワークを確保するため、既存のバス路線および区バス、住民バスの充実に努めるとともに、さらなる移動しやすい環境整備などを図ります。

(5) 農村集落の活性化

農村集落では、既存集落区域内の住宅建築の促進などにより、定住人口の確保や活性化を進めます。

(6) 自然環境の保全・活用

田園および河川などを江南区の貴重な財産として捉え、その恵まれた自然環境の保全に努めるとともに、その活用を図ることで、豊かな自然と都市機能の利便性を兼ね備えたまちづくりを進めます。

<区づくりの構想図>

